

平成 年 月 日

現在までに医聖会に

解剖献体をされた方・ご家族へのお知らせ（献体を用いた解剖研究について）

本学では、学生に対する解剖献体を用いた教育に加えて、医師に対する手術手技教育、解剖研究を実施しております。これらの研究は、生前に献体にご同意を頂いた方々の解剖献体を用いたものですが、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成 26 年 12 月 22 日制定、平成 29 年 2 月 28 日一部改正）」に死体試料も含まれるとの記載がされたため、改めてお知らせさせて頂いております。対象となる患者さんのお一人おひとりから再度直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身・ご家族のご献体が研究として利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名：学生実習用解剖献体を用いた、骨盤骨折に対する下前腸骨棘からのアプローチ Teepee sign と外側大腿皮神経の走行位置の検証
2. 研究期間：2017年9月～2019年8月
3. 研究機関：産業医科大学整形外科
4. 実施責任者：善家 雄吉
5. 研究の目的：産業医科大学では、当大学に献体されたご遺体を、医学生の解剖実習のみならず、医師の教育・研究にも利用しており、平成 24 年 5 月に日本外科学会・日本解剖学会の連名で作成された「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」に準拠して行なっています。教育・研究・肉眼解剖の定義としては、手術手技や検査手技の技術向上を目的とする解剖は「教育」とし、新たな手術手技の開発や人工関節などの新しいデバイス開発などは「研究」とし、通常の医学生の肉眼解剖実習のように人体の構造を知るための解剖は「肉眼解剖」と定義します。解剖献体を用いてこれらにつき得られた知見を今後の臨床医学分野に役立てることを目的といたします。
6. 研究の方法：上記解剖献体を用いた研究につき、その詳細を問い合わせされたい場合には、下記連絡先までご連絡下さい。

7. 個人情報の取り扱い：データは、被験者が特定できないように、研究実施責任者の厳重な管理の下で、被験者番号を付して連結可能匿名化し、その番号と実名の対応とともに鍵のかかる本学整形外科学研究室に保管します。この研究により得られた成果を論文などに発表する場合には、個人を特定できる氏名、住所などの個人情報は一切使用しません。個人情報は、研究終了後5年間保管し、匿名化を確認した上で廃棄します。利用の拒否を申し出られた場合は、得られた研究成果は使用致しません。また、利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。
8. 問い合わせ先：産業医科大学 整形外科学 善家 雄吉 (Tel: 093-691-7444)
9. その他：対象者への経済的負担や謝礼はありません。